

傘寿記念第17回青山68会展

片桐 靖孝 (68回)

60卒

令和3年1月17日(日) 16時、世界中がコロナ禍に飲み込まれ日本国中も同様の中で、幹事長である田中宣男君の指揮の下、何回もの打ち合わせやその間の幹事会を重ね、1年間かけて慎重に準備を整えて実施にこぎつけた「傘寿記念第17回青山68会展」トワイライト

「アート」の5日間が雪の降り続く中、無事成功裏に終了しました。関係者一同、ほっと胸を撫で下ろしながら、17年間続けてきたこの同期の行事を振り返り、達成感と充実感に浸りながら、後始末に取りかかりました。

思えばもう80歳?…定年後に始めたこの「68会展」は、回を重ねることに参加者同士の団結力が増し、一人ひとりの向上心も増大し、卒後イベントの重要な一つとなつて今日に至りました。

開催期間中の新潟市美術館は、丁度「きかんしゃトーマス原作出版75周年・ソドー島の仲間達が教えてくれたこと展」が同時開催で、親子連れが多く館内を歩いています。受付係が「青山68会展」に呼び込むと、子供が若松昌弘君の作品である「能面」に興味を示して、マスクをした若夫婦が手を引かれて入ってくるといった具合の場面が多くありました。

出品者15人の自画像と作品群(55点)は、見にこられた方々からはととも良い評価を頂いたと感じ

ています。特に、3年前に、まとめ役の田中宣男君から「作品提出者の自画像も一緒に飾ろう」との提案で始めた自画像は、各自の技術力と向上心を高め、色の工夫や構図の工夫が画面にも溢れていました。最後に幹事長に今回の感想を聞いてみると、「何よりコロナ禍の中でも継続し得て良かった…。期間中の来訪者はおよそ30人くらいだった。最後まで心配が付いてまわったが、信じてやり遂げた満足がある…」。

